

矢崎財団 14人に研究助成金

1983年以来、科学技術の発展を目的として「新材料」「エネルギー」「情報」の3分野を対象に研究助成などを行っている矢崎科学技術新興財団（細川興一理事長）は先頃、2019年度の研究助成金受領者14人、国際交流援助13人、矢崎学術賞受賞者2人を決定した。

今年度も科学技術の発展を目的に、独創的でその成果が科学技術の進歩に大きく貢献すると考えられる研究を対象に選考した。国際的な学会での研究発表や共同研究を行う際の渡航費を支援する国際交流援助、過去に同財団から研究助成を受けた研究者のなかから優れた業績をあげた研究者に与える矢崎技術賞を含めた、受領者・受賞者数と代表的なテーマなどは次の通り。

◎一般研究助成（200万円）▽小野智司鹿児島大学学術研究院理工学域工学系准教授の「異常検知や変化点検知における教師信号付き学習データの合成方式の提案」をはじめ7件（応募79件）。

◎奨励研究助成（100万円）▽佐藤孝憲兵庫県立大学大学院工学研究科助教の「光演算回路のためのシリコンリング光共振器を用いた集積型可変フェーズシフタおよびパワーディバイダの開発」をはじめ7件（応募44件）。

◎国際交流援助＝13人（応募20件）。

◎矢崎学術賞▽功績賞＝水口将輝東北大学金属材料研究所准教授▽奨励賞＝坂本良太京都大学大学院工学科准教授。

奨励研究助成は原則35歳以下の若手研究者が対象。当財団が特定したテーマにふさわしい研究が対象とされる特定研究助成は10件応募があったが、厳正な審査の結果、該当なしだった。

なお5日に予定されていた研究助成金贈呈式は、新型コロナウイルス感染拡大リスクが高まっていることなどを踏まえ中止された。